

臨地実習受け入れ施設アンケート（実施期間：令和4年10月1日～令和4年10月30日）

1. アンケート内容

I 実習指導者として、当てはまるものに○をつけてください。

	当てはまる	どちらとも言えない	当てはまらない
1. 実習目標を理解している			
2. 評価規準(基準)を理解している			
3. 自分の実習指導の評価に関心がある			
4. 学生の反応や関心に注目している			
5. 学生の必要に応じてアドバイス・支援・説明をしている			
6. 学生を1人の人間として尊重している			
7. 学生のレディネスを理解している			
8. 学生の個別性に合わせて支援している			
9. どの学生にも平等に接している			
10. 先入観を持たずに学生に接している			
11. 学生が自分の考えに基づいて行動することを尊重している			
12. 学生とのコミュニケーションを意図的にとるようにしている			
13. 学生のカンファレンスに参加している			
14. 看護教員と連携をとっている			
15. 自身の“看護”を学生に伝えている			
16. 学生の変化がみられるのが実習指導の醍醐味である			
17. 実習記録だけが評価の対象にはならない			
18. 実習の受け入れは後輩の育成につながる			
19. 実習の受け入れは自施設の看護実践の質向上につながる			
20. 実習の受け入れは社会から信頼を得る専門職としての使命である			

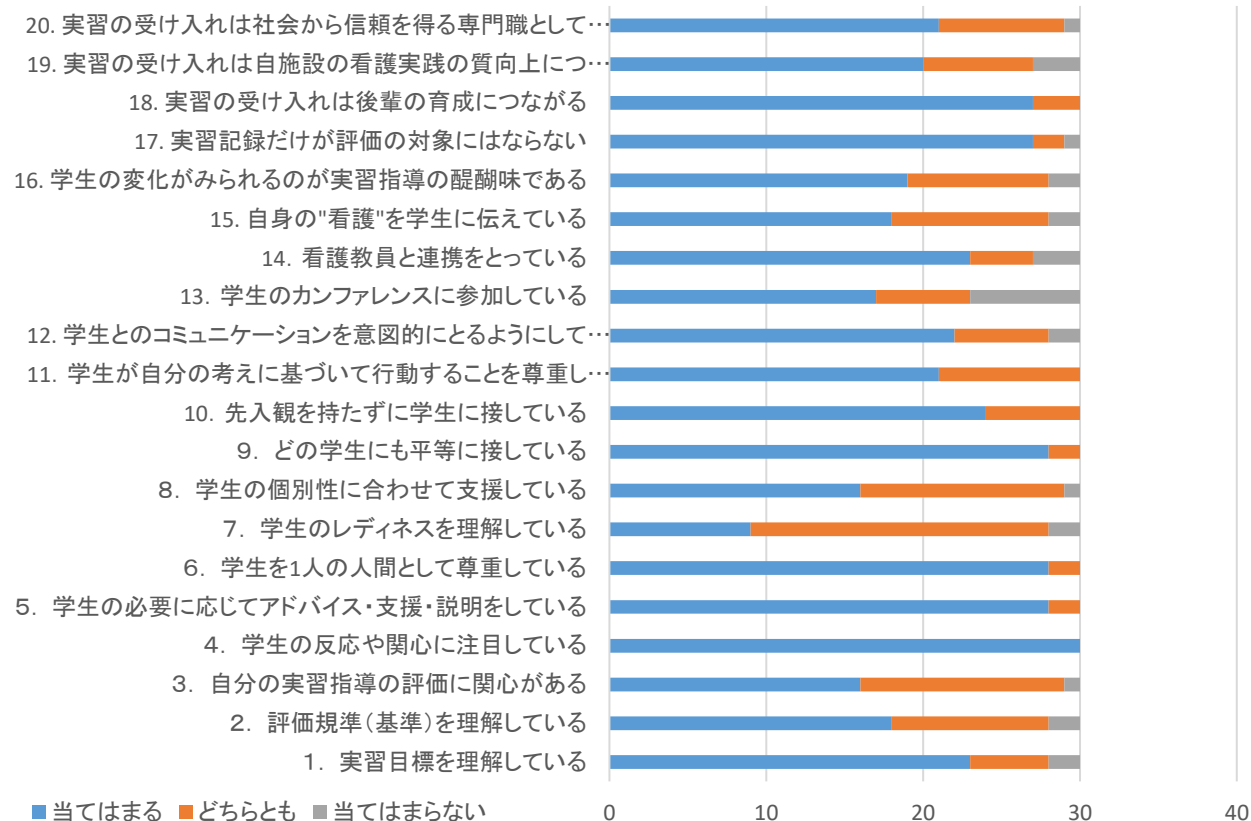
II 本校では、確かな看護技術と基礎知識、そしていたわりや思いやりの心情と高い倫理観をもった“地域で即戦力として活躍できる准看護師”の育成に向け、主体的に看護が学べるようルーブリックを作成し実習を展開しております。本校へのご意見やご要望がございましたらご記述ください。

2. アンケート結果 (回収率79%)

I 実習指導者として、当てはまるものに○をつけてください。

	当てはまる	どちらとも言えない	当てはまらない
1. 実習目標を理解している	23	5	2
2. 評価規準(基準)を理解している	18	10	2
3. 自分の実習指導の評価に関心がある	16	13	1
4. 学生の反応や関心に注目している	30	0	0
5. 学生の必要に応じてアドバイス・支援・説明をしている	28	2	0
6. 学生を1人の人間として尊重している	28	2	0
7. 学生のレディネスを理解している	9	19	2
8. 学生の個別性に合わせて支援している	16	13	1
9. どの学生にも平等に接している	28	2	0
10. 先入観を持たずに学生に接している	24	6	0
11. 学生が自分の考えに基づいて行動することを尊重している	21	9	0
12. 学生とのコミュニケーションを意図的にとるようにしている	22	6	2
13. 学生のカンファレンスに参加している	17	6	7
14. 看護教員と連携をとっている	23	4	3
15. 自身の"看護"を学生に伝えている	18	10	2
16. 学生の変化がみられるのが実習指導の醍醐味である	19	9	2
17. 実習記録だけが評価の対象にはならない	27	2	1
18. 実習の受け入れは後輩の育成につながる	27	3	0
19. 実習の受け入れは自施設の看護実践の質向上につながる	20	7	3
20. 実習の受け入れは社会から信頼を得る専門職としての使命である	21	8	1

臨地実習受入先アンケート



本校へのご意見やご要望

- 1 コロナの影響もある中、患者さんとの接触も難しい状況ではありましたが、事前に学習している学生さん達も多く、透析の原理などスムーズに学べたのではないかと思います。また、透析患者さんに対しても、身体的、精神的、社会的影響はどのくらいなのかというのも理解していたのではないかと思います。最後に感じたこととしては、朝の集合時間になかなか来ないので、声をかけると急いでくことや休憩時間ギリギリ過ぎてくるくらいに出てくるのが目立つような気がします。
- 2 患者さんと話す時、きちんと自己紹介し、目線を合わせて話すことができていました。自ら学ぼうとする姿勢も良かったと思います。事前学習や行動目標、学生さんが持っている資料など実習前に見せて頂けたら、もう少し、その学生さんに合った実習ができるのではないかと思います。
- 3 即戦力としての育成は大事ですが、医療者准看護師としての適応が難しい学生が多くなってきているのではないのでしょうか。入学時には見極めが難しいと思いますが、基礎Ⅰの段階で面談等を行ない進むべきか否かの指導は出来ないものなのでしょうか。一生懸命実習に取り組む学生の成長は指導する側としては大変うれしいです。
- 4 うちの病院では指導者を限定していないので、その日の患者の部屋担当が実習指導者となり、さまざまな看護、看護観を学ぶことができる反面、いろいろな考え方ややり方をきいて迷ったりすることもたくさんあるだろうと思います。そのような時はぜひ相談してもらえればアドバイスが出来ると思います。
- 5 実習日数が少ないので見学と担当ナースの説明だけです。当院では指導者教育等は受けてなく、年齢も高いので、若いこれから育つ学生の方々への指導には不安があります。人間尊重やレディネスなど考えての指導は内容的に個人では改まって考えてはいないです。やる気のない態度が目立つ方には正直はそこそこしています。卒後の病院の現場では頑張られている姿を見かけます。即戦力で活躍されています。今回の指導者としては力不足ですみませんでした。
- 6 実習指導者として、日々の振り返りノートを見せてもらっているが、誤字・脱字が多かったり絵文字を見かけることもあり驚くことがある。業務から実習指導に時間を割き、スムーズに指導が行えるよう私たちも工夫したり考えているので、やはりもう少し提示するものという意識を持ち努力してほしい。又はレポート用紙を作成した方が良いのではないかと。
- 7 いつも学生に寄り添った指導をしていただいて卒業生として嬉しく思います。これからも微力ながらお力になれば幸いです。
- 8 患者さんへの言葉遣いが悪い学生さんがいますので、声かけも学ぶ必要があると思いました。わからない事を看護師に聞くだけでなく、自分で学習することも大事ではないのでしょうか。指導者を苗字ではなく下の名前と呼んだり、〇〇ナースと呼ぶのも指導が必要だと思いました。
- 9 アンケートⅠ-3について、自分の評価には興味はないが教えた事の1/10でも入っているのか、現状のレポート(学び)では分からない(それしか学ぶものが無かったと言われればそれまでですが、、、)拝見すると切なくなる。
アンケートⅠ-6の設問の意図が分かりません。
アンケートⅠ-7全員がレディネスできている様には思えない
アンケートⅠ-12質疑応答はその都度受けるようにしています。不要なコミュニケーションはとらないようにしています。
アンケートⅠ-13カンファレンスは行なっていない(物理的に難しい)。
アンケートⅠ-19日常業務の延長ではあるが、情報収集を行ったり準備を行うことは良い。実習中は手薄になりがちなのは不可。
アンケートⅠ-20使命という思いものは背負っておりません。「医療業界のために」と院長は言われています。
- 10 実習グループ内でのチームとしての関わりを学生同士で持てると即戦力も向上できると思う。実技ができる実習ができること自体に感謝(患者への気持ち)し、自分だけがという考えではなく、共にグループ内でも声かけ、協力しあえると良いと思う。
- 11 時々(回数は多かったと思う)同行した看護師です。自身の学生時代は職場の経験がなく、今の学生の方(前職を持たれている社会経験が多い方がほとんど)と比較が難しいのが感想です。自身の仕事への考え方が定まっている方が多く、時として指導者に社会経験上あわせてくれていることも多かったです。つかず離れずコミュニケーションをとるように注意しています(ある程度自立されているからです)。実習、そして資格取得、その先の入職迄みすえて学ばれているので真剣さがあり、逆に私が学ばせてもらうことも多かったです。レディネス、ルーブリックと今回初めて聞いた言葉で、私も勉強し来年に備えます。本当は何を感じているのか、何に困っているのか、知るのに時間がかかりますが、わかりづらいときは、ストレートに聞くようにはしました。上記アンケートでどちらとも言えないのが多いのは、少し距離の取り方を考えたからです。時々、実習に慣れ過ぎているなと思う方(少数です)には、実習に臨む姿勢について一言伝えたこともありましたが、少数の方ですぐ理解してくれました。今の時勢YouTubeなどで学習され私の頃よりもエビデンスがしっかりしている気もします(答がわかりやすく提示されているので)。実習先がコロナや利用者さんの意向で限られ、訪問の良さを伝えやすいところに行けないことが多く、訪問の楽しさややりがいを感じやすいチャンスが少ないことが残念でした。
- 12 ルーブリックから自分たちの目指す看護を学ばせてもらっています。

アンケート結果の評価・反省・考察

教育水準の向上、教育内容の充実と改善、実習指導者さんの実習指導に対する意識や本校への意見・要望を知ることが目的に「臨地実習受入先アンケート」を実施した。現在9施設で臨地実習を行っている。アンケートの結果は概ね「当てはまる」を占め、実習指導者さんの実習指導への真摯な思いと興味・関心の高さが伺えた。アンケート項目7, 8についてのみ「どちらとも言えない」が約半数を占めた。これは学校側から実習指導者さんに対しての説明不足が原因であったと考える。今回の実習における学生の準備がどの程度整っているかを一人一人の学生について丁寧に説明していく必要があった。実習開始前の実習要綱を用いた打ち合わせでは、看護師長クラスの方にしか説明ができておらず、実際の現場で指導に当たってくださる指導者さんに直接伝えることができていなかった。今後は、実習開始当初から病棟内で実習指導者さんとお話できる時間の調整をさせて頂き、今回の実習で学生に何を学んでもらいたいのかルーブリックを基に、一人一人の学生のレディネスについて情報を共有し、実習目標が達成できるよう支援をお願いしたい。

また、最近時間にルーズな学生が見受けられることを教員間で話し合っていたところに指導者さんからも同じようなご意見をいただいた。5分前精神を指導の中で徹底していき、時間管理と信頼性について学生の理解を促していきたい。

リフレクションノート(振り返りノート)については、あくまでも学生の内省のためのものである。指導者さんにはリフレクションノートを観ての指導よりも実習中の行動や発言(報告を含む)を通して、学生と対話しながら、また、看護を実践しながらの指導をお願いしたい。リフレクションノートは提出するためのものでなく学生自身のノートであるため、絵文字や色付け、吹き出しを作った追加や付箋の使用は自由である。思ったことや感じた事など情緒的な部分を大切にしながら、行きつ戻りつ未知の経験と既知の経験の間を往復する往還的思考の中でリフレクションノートを通して看護を学んでもらいたい。実習の評価はリフレクションノートの内容だけでなく、ポートフォリオ、実習中の行動や対話を通して確認した事、カンファレンスの内容などを含め総合的に行う。ルーブリックの評価基準Aに到達できたかどうかである。評価基準Aに到達できるよう学生には自ら主体性をもって看護を楽しく学んでもらいたい。そのためには実習指導者さんとの連携が必須であり、本校の臨地実習におけるビジョンと戦略・方法をご理解いただけるよう教員が積極的に指導者に関わっていく必要がある。准看護師を目指し入学してきた学生たち各々には色んな思いがあるはず。今回の実習だけでその学生を評価するのではなく、長期的な評価規準で一人一人の学生を大事に育てていかなければならないと考える。